

「はあああつ!!」

世界の再生が行われて  
しばらくした後…

女性型のブレイドが  
消息を絶つという  
事件を聞き…

ヒカリちゃんと二人で  
調査に来たのですが…

謎の軟体生物に  
攻撃を受け  
ヒカリちゃんと  
はぐれてしまいました





「はぁ...はぁ...」

囚われた私は  
何とか脱出を  
図ろうとしたけど...

触手の拘束はとても強く...  
脱出できそうも  
ありませんでした

この生物の体内だと  
力が使えない...

体もなんだかおかしい...  
次第に熱く...なって来てる...

私を拘束してるこの触手...  
まさかブレイドの力を  
封じ込める何かを  
持っているというの...?

それに...この触手...  
さつきから...っ!!

「やっ...さつき...破いちゃ...!!」

エッチなことはかり  
してくる...っ!!

「だめ...敏感に  
なってるの...っ!!」

「こんな...  
いやあ...っ!!」

「っ!!」

「っ!!」

「っ!!」

「っ!!」





そしてそれは  
突如に始まりました

「な、何をやるつもり!?」

「まさか!」

先端に宝石を  
付けた触手は…

私の大事な所を  
押し開き…

「だめ! 来ないで!」



…あっさり  
私の純潔を奪って  
いったのです

ゆるさない…

こんな…触手なんか…

レックスに  
捧げたかった純潔

そんな私の願いを  
踏みじった触手は  
最奥の子宮口に到達し…

絶対に…



さらなる略奪を

「あんなに……」

!?

「あ……」

「え……?」

——始めたんです——

「あああああ……」

体内のエーテルが……

強制的に……  
吸い取られ……て……っ!?

ため、何が……来ちゃっ!





その快楽は私を生まれて初めての絶頂を迎えさせるには十分すぎる衝撃でした

女性型ブレイドの子宮に宿る大量のエーテル

コアと密接な関係にある子宮のエーテルを奪われ

子宮に近いスーツはエーテルを失い弾け跳び私のコアは一瞬で破損してしまいました







「だ…め、ドンドン吸われてい…くうッ!!」

吸われれば吸われるほど私は絶頂させられ

抵抗する力を奪われていく私…

吸われるたびに…来るこの快楽…

入らな…っ!!  
「いやああああっ!!」

触手は固く閉ざされた子宮口を難なく突破し…

とても耐えきれない!!

さらに…

「だめ、そこはっ!!」

エーテルを奪う力はさらに強くなって来たのです



無防備な子宮の中を  
犯しながら触手は最奥の  
卵巣までも犯し：

「強制排卵」

全て

「あー！」「嘘…こんなの…！」

子宮から無理やり  
分離させられた卵子…

「排…卵…させら…  
れ…てる…！」

エーテルの塊

「そん…な…！」

奪われる…

ブレイドとしての力も  
女としての尊厳も…

「まさか…！」

「おめ…！」

「それ…だけは…！」









